

二十三万人の死者を出した二〇〇四年のスマトラ沖地震・インド洋津波をご記憶の方も多いでしょう。大和証券グループでは、震災直後に「大和証券グループ津波復興基金」を立ち上げ十年間の支援活動を実施中です。

インドとスリランカで支援活動中のリーダーお二人が来日されたのを機に、彼女たちと、結結プロジェクトなど3・11の復興支援関係者によるフォーラムを八月六日、都内で開催しました。写真。

スリランカのカルナワチー・メニケさんはマイ

大和総研調査本部
主席研究員
河口真理子さん



東北復興日記

57



海外から復興の助言

クロファイナンス(貧困も訪問し、フォーラムで者向けの小口金融)には示唆に富んだアドバイの自立支援活動に、インスをたくさん頂きましのアニー・ジョージさん。

人は防災の村づくり活 3・11から三年目に入動に携わっています。今、復興は進んでいるよ回の来日で、東北被災地うに錯覚しますが、心や

コミニティーの再建に三年ではまったく足りないことが、彼女たちの話で分かりました。時間の経過とともに被災者と非被災者の区別がなくなっていくので、コミニティーという枠組みで解決手段を考えるべきだということ。短期と長期課題は明確に分けて計画を立てなければならぬこと。そして生計を成り立たせる支援が大事であり、その際被災者が一歩前に出ると良いことがある、というモデルケースをみせてアクションを促

すべきだというお話もありました。

最後に、インドのジョーシさんから「六十八年前、あなたたちは戦後の焼け野原から立ち上がった。今回の被災から見事に復興できる」という感動的なメッセージを頂いた際には、会場から拍手が起き涙する方もおられました。海を越えて支援の波を広げていくことも必要と痛感しました。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。